

# 美 をつくし

MIWOTSUKUSHI

vol.176

平成23年(2011)9月1日 発行



伝 郭忠恕 明皇避暑宮図

元時代(14世紀) 本館蔵 [阿部コレクション]

明皇は唐の玄宗のこと。夏には暑を避け、九成宮と名づけた離宮で政務をとった。その壮麗な宮殿と雄偉な自然を大幅に画く。建築物には定規を使って細密工整に画く「界画」の技法が用いられている。右下の「忠恕」の款から北宋の郭忠恕の作とされるが、李容瑾「漢苑図」(台北国立故宮博物院蔵)に近似するなど、画風から元代李郭派の作と考えられる。



OSAKA CITY MUSEUM OF FINE ARTS

大阪市立美術館

9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
特別展 特別陳列	特別陳列「受贈記念 田原コレクション 色鍋島・藍鍋島」 特別陳列「中国石造彫刻400年 雕刻時光—Sculpting in time」 特別陳列「漆をたのしむ 蒔絵・螺鈿・根来」																	特別展「生誕120周年記念 岸田劉生展」												
常設展 (平常展)																		特集展示「中国書画I—館蔵・寄託の優品」 特集展示「雲の上を行く—仏教美術I」												
美術団体展 (地下展覧会室)	日本書道芸術院展(1・2室) 2011 IFA展(3室) 関西平和美術展(4室)			玄遠社書展(1・2室) 日本墨相展(3室) 莞叟社書道展(4室) (莞叟社全国書道公募展 併催)			日本綜合書作院展(1・2室) 現代南画協会展(3・4室)			関西美術文化展(1・2室) 新象展(3・4室)			創造展(1・2室) 集団造形展(3室) 全国硬筆作品 展覧会(4室)																	

10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
特別展 特別陳列	特別展「生誕120周年記念 岸田劉生展」																														
常設展 (平常展)	特集展示「中国書画I—館蔵・寄託の優品」 特集展示「雲の上を行く—仏教美術I」															特集展示「中国書画II—阿部コレクション」 特集展示「雲の上を行く—仏教美術II」															
美術団体展 (地下展覧会室)	創造展(1・2室) 集団造形展(3室) 全国硬筆作品 展覧会(4室)		墨田會書道展(1室) 大阪市立中学校総合 文化祭美術展(2室) 府美協展(3・4室)			有秋会日本画展(1室) 太平洋関西展(2室) 行動美術展(3・4室)			青峰美術院展(1室) 日書會展(2室) (併催 日本書道会展) 日現展(3・4室)			一陽展(1・2室) 関西一線展(3室) 日本書学院書道展(4室) (併催 全日本学生書道展)																			

11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
特別展 特別陳列	特別展「生誕120周年記念 岸田劉生展」																													
常設展 (平常展)	特集展示「中国書画II—阿部コレクション」 特集展示「雲の上を行く—仏教美術II」																													
美術団体展 (地下展覧会室)	二科展(1~4室)			(併催 こども二科展)			一水会展(1・2室) 独立大阪展(3・4室)			優游會書展(1室) 日本美術工芸会展(2室) 公募天真全国書道展(3・4室)																				

12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
特別展 特別陳列																															
常設展 (平常展)																															
美術団体展 (地下展覧会室)	環社書展(1~3室) 関西大学文化会美術部 白鷺会展(4室)			自由美術展(1室) 関西新世紀展(2室) アジア水墨画展(公募) 2011(3・4室)			近美展(1・2室) (併催 近美関西美術展) 日本光園会写真展(3室) 太源書道会展(4室)			二元会大阪支部展(1室) 新書派協会展(2~4室)																					

1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
特別展 特別陳列	特別陳列「光琳資料をひもとく」 特別陳列「中国拓本—師古斎コレクション」 特別陳列「中国工芸 5000年—金属器・陶磁器の多彩な表現」																														
常設展 (平常展)																															
美術団体展 (地下展覧会室)	大阪市立美術研究所展(1・2室) 一心書道会新春書展(3室) 大阪を描こう展(4室)			大阪市立高等学校芸術祭 展示の部(1・2室) 元陽会展大阪巡回展(3室) 四ツ橋会新春公募書展(4室)			青潮書道会全国展(1・2室) 近畿独立書展(3室) 日本写真作家協会展 公募展(4室)			大阪府高等学校書道展 (1~3室) 全国書芸そめ作品展覧会 (4室)																					

2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
特別展 特別陳列	特別陳列「光琳資料をひもとく」 特別陳列「中国拓本—師古斎コレクション」 特別陳列「中国工芸 5000年—金属器・陶磁器の多彩な表現」																	特別展「第43回 日展」												
常設展 (平常展)																														
美術団体展 (地下展覧会室)	国際高校生選抜書展 (1~4室)			浪速書道展(1・2室) パッチワーク・キルト展(3室) 書き初め作品展覧会(4室)			日本書芸院 二科審査員展(1~4室)			近畿大学文芸学部芸術学科 造形芸術専攻制作展(1室) 新春現代俳画展(2室)																				

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
特別展 特別陳列	特別展「第43回 日展」																														
常設展 (平常展)																															
美術団体展 (地下展覧会室)	2012・ZERO展(1・2室) 全国公募翠峰会書展・ 翠峰会書展(3室) 全日本アートサロン 絵画大賞展(4室)			白亜展(1・2室) 人展(3室) 青桃会展(4室)			関西一陽展(1・2室) 書道学会展(3・4室)			関西水彩画展(1・2室) 国際水墨画展(4室)			関西独立美術展(1・2室) 創彩展(3室) 歌友会書道展(4室)																		

## 第43回 日 展 43th NITTEN The Japan Fine Arts Exhibition

**開催日：平成24年2月18日(土) から3月18日(日)**  
**観覧料：一般1,000円(800円)、高大生800円(500円)**  
 ※カッコ内は前売り・20名様以上の団体料金、前売り券の販売は2/17まで  
**中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方は無料**  
**主 催：大阪市立美術館、読売新聞大阪本社**  
 全国巡回の日本最大規模を誇る公募展。大阪展では全国を巡回する日展の大家作家による作品と入賞者の作品からなる基本作品に加えて、大阪・奈良・和歌山・兵庫の地元作家による入選作品を展示します

特別展

生誕120周年記念  
岸田劉生展  
2011年9月17日～11月23日

岸田劉生〔明治24年(1891)～昭和4年(1929)〕は、日本近代美術史を代表する洋画家として今日でも高い評価を得ています。代表作である東京国立博物館所蔵「麗子像」・東京国立近代美術館所蔵「切通之写生(道路と土手と塀)」は共に重要文化財であり、また美術や図画工作の教科書にも取り上げられ、日本で最も有名な画家のひとりと言えるでしょう。

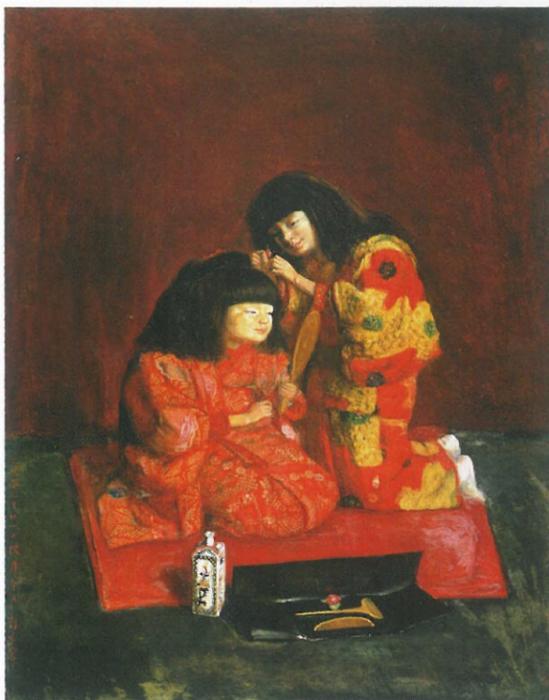
劉生は38年という短い生涯の中で、多くの作品を生みだしています。

彼は東京・銀座に生まれましたが、転居の多い人生でした。「切通之写生」を描いた代々木や駒沢を経て、転地療養のため温暖な神奈川・鶴沼へ移ります。ここで多くの「麗子像」が生まれることとなりますが、1923年の関東大震災により被災し京都へと転居します。京都では古画の鑑賞・収集に熱中し、いわゆる日本画の制作にも取りかかりました。

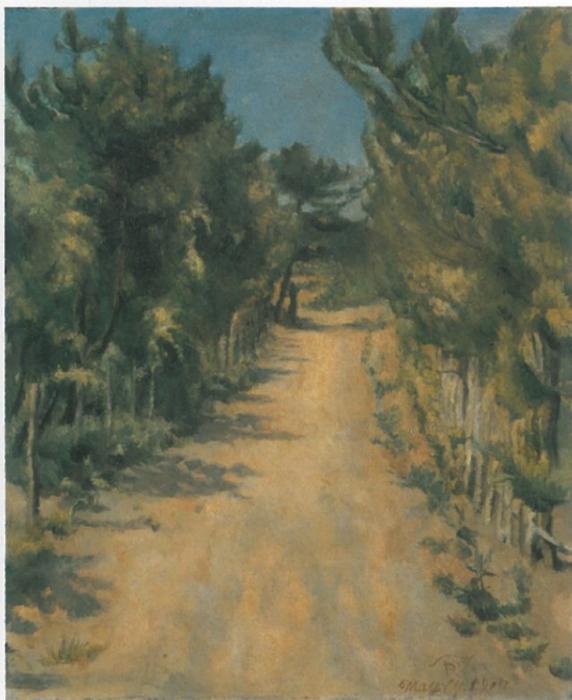
1926年、最後の居宅を神奈川・鎌倉に定め心機一転して制作にかかり、1929年には満洲(現在の中国東北部)旅行に向かいましたが、その帰路に山口・徳山で亡くなりました。

本展は劉生の代表作や数多の麗子像をはじめ、風景画、静物画さらにはデッサンまでおよそ240点により、劉生の人生とその画業をたどる、生誕120周年を記念した大回顧展です。ぜひご高覧下さい。

※日本画の作品を中心に、展示替えがございます。



二人麗子(童女飾髪) (1922年) 東京・泉屋博物館分館



初夏の小路 (1917年) 山口・下関市立美術館

〈関連イベント〉

●れいこの日

10月15日(土)

重要文化財「麗子像」は、1921年10月15日に完成しました。これを記念して、当日ご来館いただいた「れいこ」さんにプレゼントを用意しています。免許証や保険証などご本人のお名前が証明できるものをご持参ください。

●記念講演会

10月1日(土)「母・麗子を巡る思い出の人々」岸田夏子氏(洋画家)

10月8日(土)「劉生の起承転結」篠 雅廣(大阪市立美術館館長)

10月22日(土)「劉生と私」酒井忠康氏(世田谷美術館館長)

11月5日(土)「おとろえぬ名声—岸田劉生」篠 雅廣

時間=いずれも午後1時30分—3時

会場=大阪市立美術館 講演会室

定員=150名(当日午後1時から整理券を配布します。先着順)

※聴講は無料ですが、本展に当日ご入場いただいた観覧券が必要です。

特別陳列

中国工芸5000年—金属器・陶磁器の多彩な表現

2012年1月7日～2月5日

黄河流域に発達した中国文明は、様々な地域を巻き込みながら5000年の長きにわたって様々に変容し展開してきました。その足跡は、工芸品にも端的に表れています。大阪市立美術館の陳列や収集の柱の一つには中国美術があり、工芸もその一翼を担っていますが、今回は当館に所蔵・寄託されている中国工芸の名品を展覧します。新石器時代の彩陶からはじまり、商周から戦国・漢時代の青銅器、漢から唐時代の陶俑、宋代の様々な陶磁器を経て、明清時代の官窯磁器に結実する中国工芸の多彩な表現の数々をお楽しみください。



青銅 饗養文尊  
商末～西周時代初期(紀元前12～10世紀) 個人蔵



三彩 文官(部分) 唐時代(8世紀)  
本館蔵(吉村芳野氏寄贈)



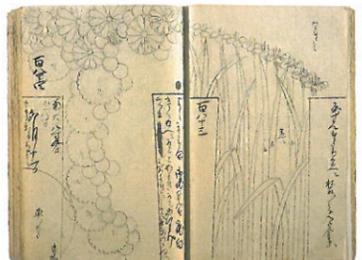
青花 龍文蒜頭瓶 江西省景德鎮窯「大明万曆年製」銘  
明代・万曆期(16世紀) 個人蔵

特別陳列

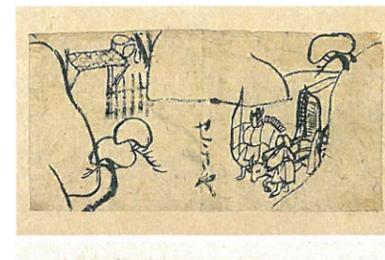
光琳資料ひもとく

2012年1月7日～2月5日

尾形光琳(1658～1716)の子寿一郎の養子先である小西家に伝来した資料類の大半は、「小西家旧蔵光琳関係資料」として昭和53年重要文化財の指定を受けています。今回の展覧では大阪市立美術館(武藤金太氏寄贈)、京都国立博物館に分蔵される資料のなかから、東福門院の小袖図案など尾形家の家職である呉服商雁金屋関係資料、写生帖・画稿・時絵図案など光琳に関わる資料、光琳の父宗謙・光琳・弟乾山・子孫に関する文書などを展示いたします。



菊・燕子花・波兔の小袖図案  
衣裳図案集三冊のうちより  
(江戸時代 17世紀) 本館蔵



尾形光琳 松鶴図屏風画稿(江戸時代) 本館蔵  
尾形光琳 梅花文時絵箱図案(江戸時代) 本館蔵



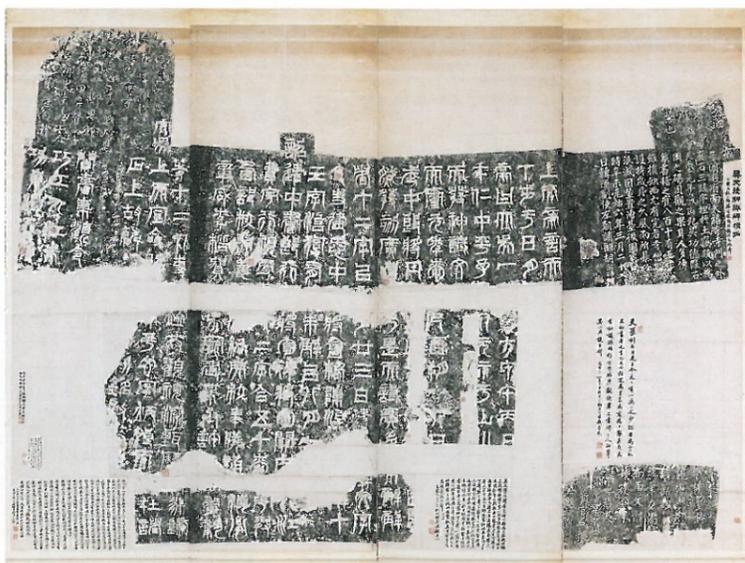
尾形光琳 関屋澤標時絵印籠図案  
図案小品集一帖より(江戸時代 17世紀) 本館蔵

特別陳列

中国拓本—師古齋コレクション

2012年1月7日～2月5日

師古齋コレクションとは、大阪出身の実業家 岡村蓉二(号商石、1910～1991)が蒐集した中国拓本のコレクションです。昭和10年(1935)ころ、最初は習字の手本として集め始めたそうですが、その金石の気に魅せられて蒐集につとめるようになり、総数は450件におよびました。なかでも、昭和13年から18年にかけての東京に転勤した5年間には、300本ほどを手に入れたということです。図の「天発神識碑」正本も昭和15年に西宮の家を売却して購入したもので、楊逸の題、王瑾・羅振玉らの跋のある名品です。



天発神識碑 吳・天璽元年(276) 本館蔵(師古齋コレクション)

平常陳列

特集展示

I / 9月17日(土)～10月16日(日)  
II / 10月20日(木)～11月23日(水・祝)

雲の上を行く—仏教美術 I・II

関西一円の寺社やお預かりしている作品及び館蔵作品の中から、国宝・重要文化財を中心に、仏教美術—絵画・彫刻・工芸・書跡の代表的な優品を一堂に展示いたします。  
※なおIとIIで絵画作品を中心に展示替えを行います。

中国書画 I—館蔵・寄託の優品  
中国書画 II—阿部コレクション

大阪市立美術館の名を世界に知らしめている中国書画の作品群。館蔵品のほか寺院や個人からの寄託品を含めたその精萃を、二期に分けて紹介します。中心となる阿部コレクションに含まれる作品は第II期に、それ以外の作品は第I期に展示します。



王武 葉鶏頭図 清・康熙15年(1676) 本館蔵 第I期に展示



国宝 金銀鍍透彫 華籠 鎌倉時代(13世紀) 滋賀・神照寺蔵

重要文化財 宮素然 明妃出塞図 金(12-13世紀) 本館蔵(阿部コレクション) 第II期に展示

鍋島焼の外側面文様について

鍋島焼の作品の主体は皿類である。その特色のひとつには、全面に青磁釉を施した作品と初期鍋島の一部の献上品を除いて、皿類の外側面と丈の高い高台部分に限定された染付文様が施されていることがある。内面の文様を表文様、外側面・高台の文様を裏文様などとも通称するが、作品の鑑賞のあり方は表文様が主体であって、花鳥文・植物文・山水文などは絵画性が高く、器物文や幾何学文はデザイン性に優れて精緻である。デザイン性や精緻さの点では裏文様も遜色のないほどの完成度を持ってはいるものの、今ひとつ地味で楽しさに欠けるため、従来はそれ程注意がはられてこなかった。

ところが、近年ではこの裏文様に注目して編年的な研究がはじめられ、検討が深められてきた。この小稿では、外側面の代表的な文様である七宝紐結文を取り上げて、田原コレクションにおける文様変化の大筋を整理したい。なお、古典的な編年観に近いものの、本稿では鍋島焼を初期鍋島(はじまりから延宝期の終わり頃)、盛期鍋島(天和・貞享・元禄期頃から寛政期の終わり頃)、後期鍋島(宝暦期頃から明治4年まで)の三期に区分してその展開を考える。

田原コレクション118件中、七宝紐結文が施された作例は29件あり、全部で12種類ある。この文様は初期の後半から登場し、「色絵龍唐花文十二角皿」(七寸皿)の裏文様には、七宝が1つの作例(挿図1)がある。盛期になると、尺皿では「染付雪景山水図皿」(挿図2)が、七寸皿では「色絵紅葉流水図皿」(挿図3)と同工品が4例(近代の盛期の模倣品にも1例)ある。五寸皿には4種あって、「色絵花籠図縁皿」(挿図4)、「色絵菊花流水文縁皿」(挿図5)と同工品が2例、「色絵青海波椿樹図縁皿」(挿図6)、「色絵牡丹唐草文皿」(挿図7)と同工品が7例ある。後期には、尺皿では「色絵金彩梅樹図皿」(挿図8)が、七寸皿では「染付

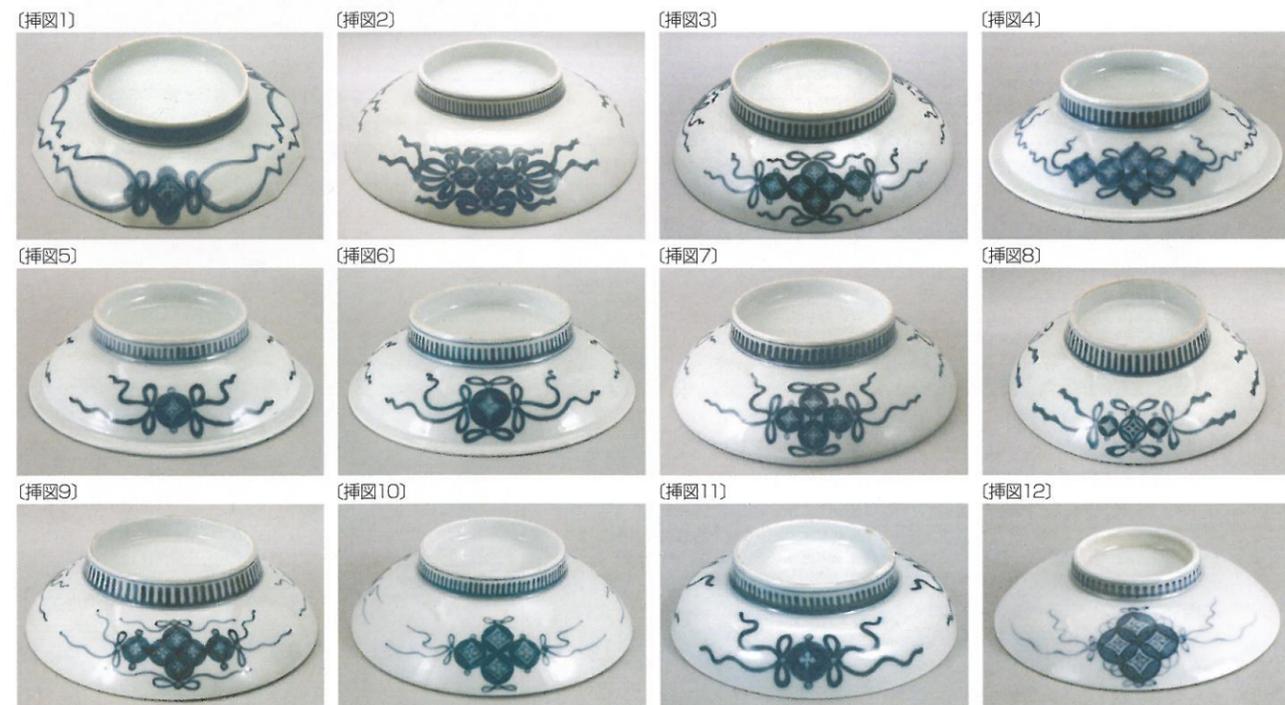
雲居花海棠図皿」(挿図9)と同工品が2例、五寸皿では「染付雲居菊花図皿」(挿図10)と同工品が1例、三寸皿では「染付芥子図皿」(挿図11)と、「色絵万年青図皿」(挿図12)がある。

七宝を1つだけ持つ作品は初期では七寸皿(挿図1)で、紐結びが左右2つでさらに長い紐を4本持つ。盛期では五寸の縁皿のみ(挿図5)に登場し、後期では三寸皿(挿図11)にもある。なお、五寸の縁皿には紐結びが4つの変り種(挿図6)もある。七宝が6つある作品は盛期の七寸皿(挿図3)で規格化されるが、その形状は後期の七寸皿(挿図9)まで踏襲される。また、五寸の縁皿のひとつには縦の紐結びがない変り種(挿図4)もある。七宝が4つある作品は、盛期では尺皿(挿図2)と五寸皿(挿図7)に登場するが、文様構成が異なり、後者の例は後期の五寸皿(挿図10)に踏襲され、幕末～明治時代初期の三寸皿(挿図12)では紐の文様構成が複雑になった新規のものが登場する。珍しい形状のものには後期の尺皿(挿図8)がある。中心と左右とが異なる形態の七宝が横一列に3つ連なり、紐の結び目や長めの紐も他にはない形状で表現される。

なお、外側面の文様は、(挿図12)の2組以外では、みな3組ずつ施文される。また、紐の表現では、初期と盛期では2本線で縁取りした後に中をダミ染めするが、後期の場合は一筆で描いてしまい、幕末～明治初期の(挿図12)では、紐というよりは糸のような表現となっている。また、高台の文様との関係では、(挿図1)の雷文以外は、みな櫛目文である。

七宝を紐で結んでつないだ同様な文様であるが、皿の大きさによって、また時代によって、一定の規格の中で七宝の数や配置のデザインをかえて少しずつ変化してきたことが理解できる。目で見て楽しむといった鑑賞ではないが、分析してみると面白いといった楽しみ方が、鍋島焼の裏文様には感じられる。

(守屋 雅史)



## 大阪市立美術館・その他事業のご案内

### 美術研究所

昭和21年に創設され、公立施設としては他に類をみないユニークな専門教育機関としてスタートしました。素描・絵画・彫塑の実技研究の事業を行っています。石膏素描(前期・後期)、人体素描、絵画、彫塑の課程があり、入所者はまず石膏素描前期からスタートし、年6回ある実技コンクールに合格した者が石膏素描後期、人体素描、絵画、彫塑へ順次進級していきます。

入所検定は、入所希望者に対して年3回(1月、4月、10月)実施します。入所検定申込書をご希望の方は、90円切手を貼った封筒(長形3号)を同封し、入所検定申込書希望とお書き添えの上、下記大阪市立美術館「美術研究所」宛にお送りください。

- 入所検定/「入所検定申込書」に検定料3,600円を添えて検定実施当日に提出する。可否の結果は、別途郵送にて通知する。  
◎検定要領は下記大阪市立美術館「美術研究所」までお問い合わせください。
- 入所料/5,400円  
入所時には入所料と研究料(3ヵ月分)合計26,400円を全納する。
- 研究料/月額研究料—石膏前・後期・絵画7,000円/人体・彫塑11,000円  
毎月の研究料は前月末まで全納する。

■平成23年度 入所検定予定 9月30日(金)・平成24年1月13日(金)

### 友の会

“FINE ARTの世界へご案内します” <随時会員募集中!!>

友の会では、日曜日に石膏、裸婦、人物コスチューム、静物画の絵画教室を開催しています。料金は一日当たり、石膏デッサン800円、油彩・水彩等1500円(別途モデル料が必要)です。

- 年会費 一般 4,000円 学生 3,000円
- 特典 大阪市立美術館での展覧会鑑賞の優待があります。古刹を訪ねて仏像などの見学会を実施しています。その他にも色々な行事に参加できます。

まず、友の会で活動されてから美術研究所に入所されてはいかがでしょうか。

■事務局：大阪市立美術館内  
お問合せ：TEL/FAX：(06)6779-9288 E-mail：tomonokai@osaka-art-museum.jp

## 大阪市立美術館(天王寺公園内)

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82  
TEL.06-6771-4874 FAX06-6771-4856  
ホームページアドレス <http://www.osaka-art-museum.jp>



- 特別陳列 観覧料  
一般500円(団体400円)、高大生400円(団体300円)
- 常設展(平常展) 観覧料(特集展示を含む)  
一般300円(団体150円)、高大生200円(団体100円)  
中学生以下・障害者手帳等をお持ちの方は無料 団体料金は20名以上  
※特別展は別料金。特別展併設時は特別展観覧料で常設展もご覧いただけます。  
※平成24年より常設展は平常展という名称に変わります。
- 休館日  
月曜日(祝日の場合はその翌日)、展示替え期間、年末年始
- 開館時間  
午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)

### 交通

地下鉄御堂筋線、谷町線、JR「天王寺」駅、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅、阪堺軌道上町線「天王寺駅前」駅下車または市バス「あべの橋」停留所下車、北西へ約400m



大阪市立美術館だより、美をつくし Vol. 176 の内容に誤りがありました。  
お詫びして訂正いたします。

■修正箇所

P.3 第43回 日展 2行目 観覧料 高大生 料金

【正】700円(500円)

【誤】800円(500円)